

衛生的なごみ集積所を

市内各所で、カラスなどによってごみ集積所周辺が散らかってしまい、その近所の方が苦労しているという声が多くあります。

そこで、浦田充は一般質問で、よりカラスなどに荒らされにくい折りたたみ式のネットボックスの配布や貸与を提案しました。

しかし、桶川市は、「ごみ集積所の場所や利用世帯数によってゴミ集積所の大きさが異なり、設置できない場所が想定される」などとして、配布や貸与に消極的です。

浦田充がさらに「複数の種類を用意すれば良いのではないかと」問うと、それ自体には答えずに、「自治会がコミュニティ推進事業補助金を活用して整備できる」と答え、市が主体となって配布や貸与することを否定しました。

しかし、自治会任せで良いのでしょうか。

カラスによるごみの散乱は、市全体の衛生環境や景観にも影響を与え、近隣の市民の負担にもなっています。市が積極的に取り組むべきです。散らかったごみは収集員も回収しているとのことですが、これは事後の対応であり、何らかラス対策や衛生環境の維持にはなりません。

さらに、「道路上にネットボックスを広げると通行の妨げになる」との答弁もありました。しかし、ネットボックスの有無を問わず、現在の多くのごみ集積所は道路上であり、ごみ袋を積み上げにくく、積み上げても崩れてしまって道路に大きく広がることになっています。

さらに、ネットボックスは折りたたみ式で、不使用時に通行の妨げになることもありません。



足立区の貸与するネットボックス。使用時(左)、折りたたみ時(右)(画像:<https://www.city.adachi.tokyo.jp/seso/kurashi/sekatsu-mondai/201803torikon.html>)

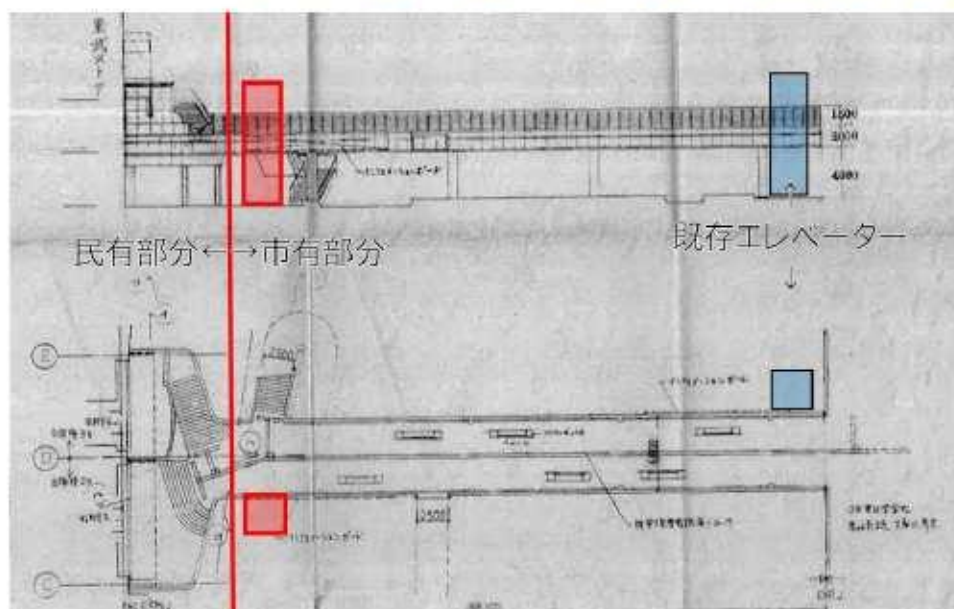
現に、複数の自治体で、折りたたみ式のネットボックスの配布や貸与も行われています。

市は、今後自治会から相談があった場合には、足立区のネットボックス貸し出し事例などを参考に研究したいと最後に答弁しました。

さらに、後日の総括質疑において、北村あやこの「(ネットボックスを)町内会に紹介してほしい」という質問に対し、「ネットボックスをわかりやすく周知する」との答弁がありました。

衛生的なごみ集積所に向けた積極的な取り組みを期待します。

いつになるのか 西口デッキバリアフリー化



前議会において、駅西口デッキのバリアフリー化に向けて予算をつけて取り組むことを期待させるような答弁がありました。しかし、新年度にそのような予算は一切つきませんでした。

たしかに、西口デッキの改修で浦田充の提案してきた手摺はようやく設置されました。しかし、かねてから求めている段差部分の解消(スロープやエレベーター設置)などは、一切動こうとしません。

桶川市は、デッキが通行できなくても、駅からマインには大回りすれば行けるから良い、などとの答弁も繰り返しています。

障害者のためだけに特別なことをしてほしいのではなく、障害者だけに課される負担を減らすべき(健常者と同じように大回りせず、デッキを使えるようにしてほしい)と訴えているのに、市の認識はまったく変わりません。

浦田充の提案している駅西口デッキへのエレベーター設置は、市が所有する歩道(公衆電話ボックス跡地・左図赤)部分です。ここであれば、市がやる気になればすぐに設置可能です。設置費用や管理費用など計算する前から拒絶する理由はありません。

新年度は予算ゼロとのこと。デッキの問題については、福祉部局含めて1年かけて予算をかけなくてもできることを進めたいと、早期の予算化と本格的なバリアフリー化を引き続き求めています。

西口広場は、ゼロベースで整備すると言いますが、全容が大きく変わるとは思えません。マイン含め、すべてまっさらに変える現実的可能性も低いです。

ゼロベースという言葉をもとに、バリアフリー化の議論すら拒絶する姿勢は改め、一日でも早いバリアフリー化を実現すべきです。



浦田 充



@mitsuru287



@u_mitturu



各種SNSでも
発信中！

＜浦田充(うらたみつる)＞
1992年桶川市生。デュシェンヌ型筋ジストロフィー
ひがし幼稚園卒園▶朝日小学校▶蓮田養護学校▶上尾
高校卒業(教育長賞)▶立正大学法学部卒業(首席)。
2019年桶川市議会議員選挙初当選(最年少)。2023
年再選。総務常任委員会委員。議会だより編集委員会副
委員長。埼玉県中央広域事務組合議員。

ホームページ



浦田充

うらた充
mitsuru urata

ともに生きろ会

北村あやこ
ayako kitamura

排除ベンチはもういない



駅西口トイレ前に設置された真ん中に手すりのあるベンチは、「排除ベンチ」と言われるタイプのベンチです。このようなベンチは、真ん中に手すりを設置するのは、ホームレスの方が横になれないようにすることを意図して考案されました。

このようなベンチでは、具合の悪い方や子どもなどが一時的に横になったり、介護者と被介護者や親子が並んで座ったりすることも難しいものであり、ユニバーサルデザインと逆行するベンチの設置は、問題ではないかと、追及しました。

◀新設された真ん中に「手すり」のあるベンチ（3月10日撮影）。

上：駅西口トイレ前新設ベンチ

下（2枚とも）：西口公園新設ベンチ

❶排除ベンチとは
仕切りを付けたり、傾斜を付けたりして、寝転がる・長時間座るといったことを妨げるベンチ。意地悪ベンチとも言う。

都市整備部長は、「『排除ベンチ』という認識はない」とし、設置したベンチは「誰もが安全に座りやすく立ち上がりやすいように、また、パーソナルスペースを確保できるように手すりを設けたものだ」と説明しました。しかし、手すり以外でもパーソナルスペースに配慮した構造（例えば、電車の座席）は可能なのです。

道路の移動等円滑化基準ガイドラインでは、休憩スペース設置にあたって、障害者等へ意見聴取することが望ましいとしています。都市整備部長は、ガイドラインの確認をしていなかったことを認めました。再三訴えているバリアフリーマスタープランを策定していれば、このようなことはなかったはずです。今後の工事では注意するとしました。

最後に、このようなベンチが増えないように、東口のベンチ設置においては、子育て世代、高齢者、障害者などの意見をしっかり聞いて反映するよう求めました。

工事中のバリアフリー化求む

駅西口トイレの工事にあたり、トイレ前まで工事車両が通行できるように、旧三井住友銀行前付近を中心に敷板等が置かれました。この敷板によって歩道面と段差が生じ車いすでの通行が困難になっていました。また、仮設の点字ブロックのめくれなどの問題点も追及しました。



△西口トイレ工事中の段差やガムテープによる固定の甘い点字ブロック。

都市整備部長は、段差を減らすためのすりつけや段差への警告表示などの配慮は行ったと説明しましたが、車椅子での通行の困難さや仮設点字ブロックの確実な固定などに関しては考えが及ばなかったようです。

駅は非常に通行量が多いです。部分的な道路工事など以上に歩行者に配慮しなければなりません。十分に反省してもらいたいと思います。

他自治体見習いガイドライン制定を

工事中の歩行者への配慮については、東京都品川区や横浜市はガイドラインを制定しています。

そこには、『段差は、可能な限り作らないようにします。やむを得ず、段差が生じる場合には、段差は、わかりやすく表示し、安全な手すりの設置を検討します。』（横浜市）など記載されています。今回の工事ではスロープ設置などの対応が可能だったはずですが。

今後、ガイドラインについて調査研究するとのことですが、先進事例を参考にすれば容易に制定可能です。ガイドラインを作らなくても、今後のバリアフリーや安全を配慮するとのことですが、桶川市の場合には、ガイドラインで周知等を徹底する必要があると思います。これまでもバリアフリー化は行き当たりばったりで、議会の指摘があってもはじめて動くということが頻発しています。明確な基準を作ることを強く求めます。

新年度予算反対

ともに生きる会は、桶川市令和7年度当初予算案に反対しました。以下の項目以外は、3月議会報告-2でご覧ください。

大赤字の駐輪場修繕1億1千万円計上

西口第一自転車駐輪場（桶中グラウンド向かい、パークタウン脇）の自転車ラック更新と塗装工事をを行います。予算約1億1000万円のうち、ラックは約3400万円で、塗装工事が大部分を占めます。

同駐輪場の年間の収支は、約600万円の赤字で、利用率も60%程度にとどまっています。このような状況下で、1億円以上かけるのは不合理です。ラックの交換のみに留める、あるいは、敷地を民間に貸して民間に整備と運営を委託するなど検討すべきだったのではないのでしょうか。民間ならもっと合理的にできるはずですが。

市政施行55周年事業は必要か

桶川市は今年、市制施行55周年式典を開催する予定です。式典だけで385万円もの予算が、その他の記念事業を合わせると、55周年事業だけで予算は767万円にも上ります。

そもそも5年ごとに多額の予算をかけて式典等を開催する必要があるのかも大いに疑問です。

6月議会は、6/5
(木)開会予定です。
※議会傍聴席（市役所5階）、ライブ配信でご覧いただけます。

一般質問は、
浦田充6/16(月)
北村あやこ6/17(火)
の予定です。